

# はぎの会蔵書

定例会などで、皆様から事務局にいただいた著書などをご紹介します。順不同です。

今回は2019年9月以降にお届けいただいた書籍や冊子と動画をご紹介します



『津田梅子』と私の母  
(芸文誌「きらら」第六号 抜粋のコピー)  
高木洋子(小山田(石渡)せつさんご長女)

津田梅子先生から直接指導を受け、大正五年(1916年)女子英学塾を卒業なさった小山田(卒業時姓 石渡)せつさん。「津田梅子」と私の母」は、せつさんのご長女、高木洋子さんの作品で、芸文誌「きらら」に掲載されました。前半で梅子先生の生涯を概観し、後半は、せつさんからお聞きになった学内の様子や梅子先生のご指導の様子、また、せつさんが梅子先生の知人の方とご結婚されたこと、移り住んだ仙台で根をはって生活された様子などが生き生きと書かれています。大庭みな子の小説に出てくる「東北から出てきた老女」が、当時、津田塾同窓会東北地区(現在の同窓会仙台支部の前身と思われます)支部長をなさっていたせつさんなのではないか、というお話もあります。せつさんは、鈴木瑠璃子さんに書いていただいた「はぎの会創世の頃」(昭和四十年頃)にも先輩として登場なさっており、生涯を通して津田塾と関わられたことがうかがえます。せつさんの三女でいらっしゃる木村文さんが、お持ちだった写真を表紙に貼って、はぎの会へ届けてくださいました。せつさんは二十歳前後、梅子先生は五十歳前後と思われる、きりつとした表情です。この冊子のコピーは、新紙幣発行までに、はぎの会からのお知らせに同封して皆様にお届けする予定です。



津田塾会 編集・発行

「津田塾会四十年の歩み」は、財団法人として、津田英語会、津田スクールオヴビズネス、津田国際研修センターなどを運営してきた「津田塾会」の発足から1988年までの40年間の記録です。日本の国際化の中で財団の事業はみごとに成功し、津田塾大学とともに、「津田塾」の発展に貢献し続けました。その基礎を築いたのは、敗戦後の1947年、同窓会が千駄ヶ谷駅前に建てた津田英語会でした。「敗戦！大切なもののすべてが音を立てて崩壊してゆくなかで、生き残ることができようか」というなかで、同窓会が立ち上がった、という書き出しは印象的です。